

【国指定登録有形文化財】

旧長崎高等商業学校 研究館（瓊林会館）

長崎県長崎市



現在の瓊林会館

瓊林会館は、長崎大学経済学部片淵キャンパスにあり、平成一九（二〇〇七）年、国の登録有形文化財に指定された歴史的建造物である。橋本汽船の社長であった橋本喜造氏の寄付により、大正八（一九一九）年

十一月二十三日に本館落成式が行われた。当初は「研究館」と称し、研究教育活動の中心を担っていた。煉瓦造り二階建て、総工費六万五千円（現在の換算で約二億円）と記録されている。

橋本喜造氏は長崎商業学校（後の長崎市立商業高等学校）卒業後、叔父が経営する橋本商会（佐世保）に入社した。直ちに経営者として力量を発揮し、長崎を代表する企業へと成長させた。その後、佐世保商業銀行（後の親和銀行）の設立、雲仙観光ホテルの建設、橋本汽船（神戸）の設立、堂島ビルディング（大阪）の開設などに携わった他、後には衆議院議員として政界に進出した。

研究館は、昭和一七（一九四二）年大東亜研究所、昭和二二（一九四六）年産業経営研究所と改称した。原爆による被害は軽微であったが、昭和四七（一九七二）年には老朽化に伴い取り壊しが検討された。しかし、同年三月、長崎大学経済学部の同窓会である瓊林会による寄付にて改修を行い、「長崎大学瓊林会館」と改称、現在に至っている。

建造物としての特徴

瓊林会館は、まず玄関前に二本のオーダーを持つポーチが目を引く。イギリス積み煉瓦（長手だけの段、小口だけの段と一段おきに積む方式）と楣石を戴く窓で描く縦の線を強調した



イギリス積みの壁

赤と白のコントラストが印象的である。十分な強度が確保されるイギリス積みを採用したことが、百年の風雪に耐えた理由であろう。シャンデリア、階段の手すりの彫刻、破風に見られる漆喰を浮き彫り（レリーフ）状に盛り上げた漆喰彫刻など、戦前の洋風建築の魅力にあふれており、映画やテレビドラマのロケにもしばしば使われている。

品位と風格に満ちた文化財的価値

平成二八（二〇一六）年の熊本地震により、館内のひび割れが進んだため、現在、内部への立ち入りは制限されている。しかし、長崎大学経済学部のシンボルとして、さらに長崎高等商業学校・長崎経済専門学校・長崎大学経済学部で学んでき



長崎高等商業学校正門からキャンパス内を見る（右手奥に瓊林会館・大正中期）

た幾多の卒業生の心の拠り所であることに変わりはない。

市内の歴史ある建築物の多くが解体される中、一世紀を経ても変わらぬ品位と風格を保つ瓊林会館は長崎の往時の繁栄を象徴する数少ない貴重な文化財でもある。

その他の登録有形文化財

経済学部片淵キャンパスは、明治三八（一九〇五）年に長崎高等商業学校が設立されて以来のキャンパスであり、桜の名所として市民に愛されている。瓊林会館以外の登録有形文化財として、レンガ造り倉庫、敷地脇を流れる中島川（下流に眼鏡橋がある）に架かる石造りの拱橋がある。

レンガ倉庫は、イギリス積みによるレンガ壁に木造の洋小屋組で屋根をかけ、壁の上部には曲線を主体とした石彫が施されるなど、重厚な雰囲気醸成している。また、拱橋は教育機関の正門に相応しい橋を架けるといふ主旨から、コンクリートではなく上路式アーチ橋として設計された。石材の表面は細かく加工されており、端正な近代的设计となっている。



正面に拱橋・左手にレンガ倉庫（大正中期）

瓊林会館見学情報

※瓊林会館見学は以下の（公社）瓊林会にお問い合わせください。
所在地：〒850-0003 長崎県長崎市片淵 4-2-1
（長崎大学経済学部内 瓊林会館）
TEL：095-821-4567 FAX：095-821-4569
E-mail：info@keirinkai.or.jp



注1 建築を支える力学的仕組みは、軒を支える梁、梁を支える柱（中略）のように、支え-支えられる一連の関係として存在する。この柱を主役とする床から軒までのワンセットをオーダーという。（河出書房新社発行『図説西洋建築の歴史』）
注2 窓・出入口の上に水平に渡した石。
注3 日本建築で、屋根の切妻についている合掌形の装飾板。また、それについている所。（注2・3岩波書店発行第七版『広辞苑』）